

大分市立金池小学校 学力向上プラン 平成30年度 (I)

I 学力調査の結果

【平成30年度全国学力学習状況調査】	【平成30年度大分県学力定着状況調査】
<p>・国語、算数、理科の「知識」「活用」において県平均及び全国平均を上回っていた。特に、算数、理科においては「知識」「活用」両方において平均正答率が全校平均を10%以上上回っている。また、国語も平均正答率が全校平均を8%以上上回っていて、全体的に安定した学力を保っている。</p> <p>・3教科共通に記述式問題に弱さが見られ、今後の定着が課題である。</p>	<p>・国語、算数、理科において、正答率及び偏差値は、全国・大分県の結果を上回っていた。</p> <p>・国語の「書くこと」「書く能力」については、全国平均を大きく上回り安定した結果を出している。</p> <p>・算数の「面積」と理科の「一年間の動物の様子」に正答率が低いものがあり、今後の定着が課題である。</p>

II 指導改善のポイント

<p>① 「書く活動」を重視した学習活動を仕組むことによる活用力のアップ</p> <p>② ドリルタイムを活用した基礎基本の定着</p> <p>③ 自分の考えを進んで表現し、主体的に課題解決に取り組む授業の創造</p>	<p>④ 家庭の教育力を生かした家庭学習習慣の定着、及び「早寝・早起き・朝ごはん」や「読書」の習慣化</p> <p>⑤ 家庭や地域との協働を通じた「あいさつ」の定着</p>
---	--

III めざす子ども像

- 単元末テストで60点未満の下位層を5%以下にする。
- 児童対象のアンケートで、「授業中、自分の考えをすすんで表現できる」児童の割合を90%以上にする。
- 家庭との協働により、家庭学習の実施率（提出率）を100%にする。

IV 具体的な取り組み

<p>【学校の取組】</p> <p>○課題解決学習における学び合いの場の保障（子どもが学び合う授業づくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く活動、ノート指導の重視 → 確かな根拠 → 意見発表 → 練り合い → 考えの深化 * 教師が教え込む授業ではなく、子ども自らが授業を創造していくという授業展開をねらう。 <p>○教職員の授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で単元毎に教材研究をし、指導計画を練ることを通して、質の高い授業の創造を目指す。 ・各学年部を中心として学期に1回互見授業を実施し、助言し合う。 <ポイント>・・・「素材の工夫」「課題設定」「深め課題の成立」「板書の工夫」「書く活動やノート指導」 ・大分市教育委員会指導主事を招聘し、指導助言をいただく。 <p>○基礎基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「金池タイム」の充実・・・学力調査で明らかになった弱点の克服を含めて、算数・国語の基礎問題を中心とした反復練習（フォローアップシートの活用）に取り組む。 ・モジュール学習の実施・・・水曜日1校時に全クラス実施し、学習意欲を高める。 ・単元末の習熟指導・・・少人数指導によるきめ細かな指導と、低学力層児童の学習理解を図る補充指導の充実を図る。 <p>○小中一貫教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会（互見授業）を中心として連携を密にし、9年間を見通した教育に取り組む。 ・国語指導については、6年生の課題を共有化して発達の段階に合わせた各学年での指導を明確にする。 <p>○豊かな読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標貸し出し冊数年間8万冊とし、図書館支援員や読み聞かせボランティアと連携して取り組む。 ・調べ学習に適した図書館環境づくりを行い、積極的な図書館の活用を図る。 <p>【家庭・地域との協働】</p> <p>○あいさつ運動を家庭・地域と協働で継続して実施し、一定の成果を上げることができており、維持向上を目指した取組を引き続き実施していく。</p> <p>○「家庭学習の手引き」を活用して家庭学習習慣の確立を図り、学習内容の一層の定着を目指す。</p> <p>○PTA 懇談会や学校だより、図書館だより等、さまざまな手段を活用して、家庭での読書や体力づくりの習慣化を図る。</p> <p>○地域ボランティア講師による「金池つ子ふれあい活動」を実施し、豊かな体験活動の場を創りだす。</p> <p>* 放課後体験活動4回、休業日体験活動1回の計5回実施を目指す。</p>
